

トラとおじいさん

上演台本

■人形■

・老人

・トラ

・牛

・キツネ

■背景■

・立木

・草むら

・森

・道

■小道具■

・肉

★司会の語りの間はストップモーションとする

□舞台 下手奥に森 上手寄りに檻

司会 「これはインドに伝わる昔話：ここにいるのは森に住んでいるトラです：このトラはとてもおなかをすかせていました：「トラを中央に置く」

トラ 「あー腹がへったなあ：おやいいにおいがするぞ（檻のほうをみて）やあ肉じゃないか：どれごちそうになるのかな：「トラが中に入り扉をしめる」あれっ？扉が閉まったぞ：出られない：おーい 扉をあけてくれ：ここから出してくれ」

司会 「トラが困っているとそこへおじいさんが通りかかりました：「老人が下手から登場」

トラ 「おーいじいさん：ここから出してくれ」

老人 「おや：毘にかかったようだね：気の毒だがもう出られないよ…」

トラ 「そんなこといわずにここをあけてくれ…」  
老人 「いやだよ：開けたらお前はすぐにわたしを食べるだろう？」

トラ 「いやお前なんか食べないよ：おれは今、満腹なんだ：それにお前のようにガリガリに痩せた人間を食べる気にはならないよ」  
老人 「そうはいつでも開けたらお前はすぐにわたしを食べるに違いない」

トラ 「食べないと約束するよ：それどころか助けてくれたらお前にお礼を言って恩にきるよ」

老人 「それほどいうのなら助けてやろうか：「檻の扉を開けて



やる」

トラ 「檻から飛び出し老人の前に出て」やい人間…」

老人 「うわーっ…助けてくれ」腰を抜かす」

トラ 「ありがとうよ…礼を言うぜ」

老人 「何だお礼か…どういたしまして…」立ち上がる」ではさよ  
うなら」下手に去ろうとする」

トラ 「待った…約束通り礼はいったぞ…やっぱりお前をいただ  
くことにする」

老人 「食べないといったじゃないか…満腹だともいったぞ」

トラ 「本当は腹ペコなんだよ…」

老人 「ひどいじゃないか…食べるなんて」

トラ 「では お前をかまわずに丸ごと飲み込むことにする」

老人 「お前のおなかに入れば同じことだよ」

トラ 「おれはトラだ…トラは人間を食べるものなのだ」

老人 「そんな…第一わたしは人間の罾につかまっていたお前  
を助けてやったのにそんなわたしを食べるといのか」

トラ 「おれはお前を食べるのが当然だと思うが、それならおれ  
が言うことが間違っているかだれかに聴いてこい」

老人 「いっぺいのか？」

トラ 「ああ だが必ず戻ってこいよ 約束だ ここで待って  
いるからな」

老人 「わかった…わたしも約束はまもる…では行ってくるよ  
」下手に去る トラと檻を隠し立木を出す」

□舞台上手寄りに立木

司会 「おじいさんが森を歩いて行くと1本の大きな木が立っ  
ていました…そこでおじいさんは聞きました」

老人 「木よ木よ聞いておくれ…わたしはさっき罾にかかって  
いたトラを助けた…それなのにトラのやつはおれを食べ  
るといふのだよ…こんな恩知らずなことがあるだろ  
うか？」

立木 「立木目を開けて」よくあることさ…おれだって人間の  
ためにこんなに枝を拡げて日陰を作ったり、雨宿りさせて  
やっているのに人間のやつはおれの枝を切って薪にして  
しまうのだ…お前もトラに食べられるんだね…」

老人 「そんなあ…」腰を抜かし 立ち上がる」しかたない他のだ  
れかに聞いてみることにするか…」立木を草むらに変え  
る」

司会 「おじいさんが歩いて行くとそこへ牛がやってきました



「上手から登場」

老人

「ウシよウシよ聞いておくれ：わたしはさっき畷にかかって  
いたトラを助けた：それなのにトラのやつはわたしを  
食べるというのだよ：こんな恩知らずなことがあるだろ  
うか？」

ウシ

「よくあることさ：わたしは人間のために毎日重い荷物を  
運んでいる：それなのに人間のやつはわたしをもっと働  
かせようとムチでたたくんだ：お前もトラに食べられる  
んだね」

老人

「そんなあ：「腰を抜きし 立ち上がる」しかたない他のだ  
れかに聞いてみることにするか…」

司会

「おじいさんが歩いて行くとききれいな道に出ました「草む  
らを下げ道をテーブルに出す」

老人

「道よ道よ聞いておくれ：わたしはさっき畷にかかってい  
たトラを助けた：それなのにトラのやつはわたしを食べ  
るというのだよ：こんな恩知らずなことがあるだろう  
か？」

道

「波打ちながら」よくあることさ：わたしは人間のため  
にきれいな道になった：それなのに人間のやつは穴を掘  
ったり ゴミを捨てたりするので：お前もトラに食べら  
れるんだね」

老人

「そんなあ：「腰を抜きし」ああこれじゃあトラのいうとお  
りトラに食べられるしかないのかなあ…」

司会

「おじいさんがすっかりしているとそこへキツネが現れま  
した：「キツネ下手より登場」

キツネ

「おじいさん：なんで悲しそうな顔をしているんですか？  
「ああキツネよ聞いておくれ：わたしはさっき畷にかかっ  
ていたトラを助けた：それなのにトラのやつはわたしを  
食べるというのだよ：こんな恩知らずなことがあるだろ  
うか？それなのに木に聞いても ウシに聞いても 道に  
聞いても みんなわたしがトラに食べられるほうがいい  
というのだよ：もうあきらめてトラに食べられるしかな  
いと思っっているところなんだ」

キツネ

「えっ？ぼくおじいさんが何を言っているのかよくわから  
ないや：一緒にトラさんの所へ行ってきいてみましょう  
「老人とキツネ下手に去る」

司会

「おじいさんとキツネはトラのところに戻って行きました  
…」



□舞台中央に檻「トラがその前にいる」

トラ 「「下手から老人とキツネ登場」おお：じいさん戻ってきたか：どうだ皆は何と言っていた？」

老人 「ああそれがなあ：木に聞いても ウシに聞いても 道に聞いても みんなわたしがトラに食べられるほうがいいというのだよ：「正面を向いて」もうあきらめてお前に食べられるしかないと思っているとどころなんだ」

トラ 「そうだろう：では晩ご飯にいたたくとするか：「老人を食べようとする」

老人 「待つてくれ：ここにいるキツネが：お前に聞きたいことがあるというのだ「檻の横に立つ（ひっかける）」

キツネ 「ねえトラさん：おじいさんがいうにはおじいさんが檻に入っていると、トラさんをトラさんが助けてあげたのにおじいさんがトラさんにお礼をいわないんですよね？」

トラ 「変なことを言うなあ：違うぞ」

キツネ 「ではトラさんがおじいさんを食べてあげるのにおじいさんがトラさんにお礼をいわないんですよね？」

トラ 「何をいつてるんだ：違う違う「トラおりの中へ入っていく」いいか：おれがこうして檻に入っていたんだよ」

キツネ 「そのとき檻の扉は開いていたんですか？」

トラ 「閉まっていたよ」

キツネ 「こうですね？「扉を閉める」これでわかりました」

トラ 「さあもういいだろう？さっさと扉を開けてくれ」

キツネ 「おじいさん どうしましょう？」

老人 「おおキツネや：お前は何かしこいのだ：助かったよ：さあ行こうか「老人とキツネ下手に去る」

トラ 「おーい待つてくれ ここから出してくれ：」

司会 「トラがいくら呼んでもおじいさんは二度ともどってきませんでしたとき：おしまい「森の背景を倒すと㊸㊹㊺の文字」

— 完 —

